

学位被授与者氏名	潘 嘉慧 (はん かけい)
論文題目	陶淵明の「桃花源記」の研究―「外人」の意味を通して見た「桃花源記」の創作性
論文審査結果の要旨	<p>「桃花源記」の中に描かれている環境や生活の描写と歴史書に記載されている当時の社会状況、とくに戦乱や自然災害とを比較考察して、「桃花源記」の中に描かれる世界は、当時の社会情勢からうかがわれる世界とは異なることを指摘する箇所、陶淵明の他の作品と比較し、同じような特徴が見られることを述べ、また六朝の文学を代表する謝靈運と比較する箇所は、文献に基づきながら比較的丁寧に論述されており、説得力があつて、評価できる。しかしながら謝靈運と比較した章が少し長くなってしまつており、もう少し要点を押さえて記述したほうがよかつた。</p> <p>論文では創作性を論じることにより力がそそがれていて、その部分は論証できているので良かつた。しかしながら「桃花源記」の創作性を論証したことによって、この作品が陶淵明の文学全体の中でどのような位置づけができるようになるのか、また陶淵明の文学の理解がどう深まっていくのかという点にまで言及してほしかつた。その部分があると論文の完成度がもっとあがつたと思われる。</p> <p>論文の構成に関わるが、副題と論文の内容が一致していなかつた。副題には『「外人」の意味を通して見た『桃花源記』の創作性』とあることから、先に「外人」について考察して意味を確定し、そのことが「桃花源記」の創作性を論証する重要なポイントとなつたと読めるのだが、実際は「外人」の考察が、創作性を論じた箇所の後に配置されてしまつている。副題を変えるか、副題に合うような構成とするかすれば良かつた。</p> <p>基本的なところでは、「外人」の考察でいくつか辞書類を参照しているが、古典語を扱った辞書をもう少しあげたほうが良かつた。また日本語として意味が通じにくい箇所や、漢字の字体の統一がとれていない箇所もあつた。</p> <p>2024年2月21日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館3-218教室において、審査委員全員出席のもと最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>